

ジャガイモと映画 (25)

<マッシュポテト (2)>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お
浅間 和夫

87. 『孤独のススめ』

(原題：Matterhorn)

2013年、オランダ映画。監督：ディーデリック・エビンゲ。

オランダの田舎町に、妻に先立たれ、一人息子とも別れて孤独な日々を過ごしている初老の男フレッド（トン・カス）がいた。彼の規則正しい生活は、起床や朝食の時間から始まり、村人と話すのはプロテスタントの教会に出向いたの時ぐらいのもの。

ある日、無精ひげの男が突然、車の燃料を買うお金を貸して欲しいと訪ねてくる。しかし車は持っていない。罰として、フレッドの庭仕事を手伝わせることにする。これがきっかけで、男は彼の家に居つくようになる。こうしてその知的障害のある寡黙な男テオ（ルネ・ファント・ホフ）との共同生活が始まることとなる。

ところがテオは庭仕事の御褒美にビスケットをねだったり、夕食ではジャガイモをぐちゃぐちゃにつぶして食べたり（写真1）、日曜礼拝に行く日に朝寝坊して、お祈りもせずにパンに手を出したり、ナイフやフォークを使わずに手づかみで食べたりする。このように全ての生活行動がフレッドとは正反対なのである。

近隣の住民は、一つ屋根の下で暮らす二人をゲイだとからかったり、神の名の下、

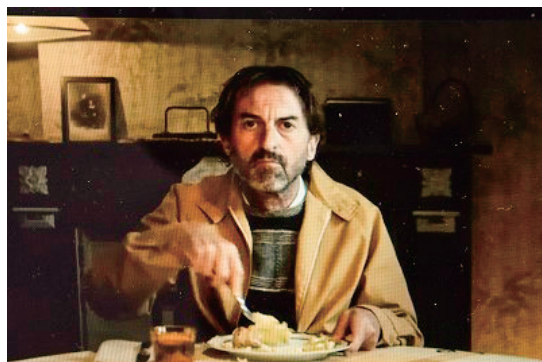


写真1 ジャガイモをつぶすテオ

人は皆等しく受け容れられるべきと説きながら、さまざまな嫌がらせを仕掛けてくる。

しかし、フレッドは、何ものにも束縛されずに自由に振る舞うことに羨望を覚えたのか、彼を追い出さずに置き続けることにする。そして、食材の買い出しに行ったスーパーでテオが山羊の鳴き真似が得意であることを知ると、裕福な家の依頼を受けて、子供の誕生パーティーの余興を引き受けることまで始めるのだった。

心ならずも始まった共同生活を送る中、二人に友情のようなものが生まれ、さらにフレッドの規則正しい単調な日常も変化していく。さらに、妻や息子の想いも分かってきて、名曲「This is my Life」と共に人生を肯定する寛大な気持ちに浸ることになる…。(原題のマッターホルンはアルプス山脈の霊峰であり、最後に出てくる。妻に

プロポーズした思い出の地であった。)

88. 『女神が家(ウチ)にやってきた』

(原題: Bringing down The House)

弁護士のピーター・サンダーソン(コメディアンのスティーブ・マーティン)は、秩序を重んじる生真面目で仕事中毒な男。妻と二人の子供はそんな彼に愛想を尽かして家を出ていってしまう。以来、自分の落ち度に気づくことなく、2年間ずっと独り身だった彼は、いつしか寂しさを紛らわすために出会い系サイトのチャットにハマっていった。やがて彼は、そのチャットで知り合った白人女性レポーターで知的美人の弁護士と思っていたシャリーーン(クイーン・ラティファ)と初デートをすることになる。だがデート当日、写真の女性とは似ても似つかない167cm、80kgの肥えたアフリカ系脱獄囚がやってくる。ピーターは直ぐに警察に引き渡そうとするが、女性は必死に自らの無実を主張する。

彼は子供二人を預からねばならず、ゆっくり対応できない。女は強盗容疑の濡れ衣を晴らしてもらいたい、という目的があり、去ってくれない。大富豪の老マダム(ローレンス・オリビエとヴィヴィアン・リーの後添として結婚したプロウライトが演ずる)が訪問してきたために、シャリーーンをメイドに化けてもらい、マダムに食事を振舞うことになる。アフリカ系女性のつくったのは甘くて脂こく、しかも量が多いコーン・ブレッド、フライド・チキン、そして筆者期待のマッシュ・ポテトとなるが、老マダムは南部出身であったため口にあう。喜んだのはいいが、ニガー(nigger)などの差別用語が飛び交い、シャリーーンの破天荒な



写真2 マッシュポテト好きのシャリーーン

ペースに振り回される話である(写真2)。

恋愛をテーマにした痛快なコメディであり、男女の心の機微を中心にしてストーリーが展開する。笑いまくるコメディもいいが、ギリギリでハメを外さないクスクス笑いのコメディ映画もあっていい、そんな映画を期待して見ては如何?。今回のマッシュポテトのように、ジャガイモ自体は安価すぎて料理の主役にはなれないが、煮る・蒸かす・揚げる・焼くなどができ、肉・乳製品などいろいろな料理に添えて使える“組合せの王様”と言えるだろう。

89. 『愛と青春の旅だち』

(原題: An Officer and a Gentleman)

1982年、アメリカ映画。監督:テイラー・ハックフォード。

ザック・メイヨ(リチャード・ギア)は、13歳のときに母親が服毒自殺し、水兵の父パイロン・メイヨに引き取られることにな

り、フィリピンのマニラの軍港に来て父親と会う。その父は、現地の売春婦に溺れている生活破綻者であり、ザックは現地の子供から略奪や暴力を受けて育つ。父と帰国して大学を卒業後、シアトルにある海軍のレーニエ航空士官候補生学校に入学するために家を出る。この父は自分より上になることを目指す息子にそんなことは出来っこないと否定する。

士官候補生学校では、担当教官のフォーリー（ルイス・ゴセット・ジュニア）海兵隊軍曹が、生徒たちを心身両面で鍛えあげるため、徹底的に教育する。そんなある日、ザックは市民との懇親パーティで製紙工場で働く女性のポーラ（デブラ・ウィンガー）と知り合う。街には士官の卵を狙う女性とか、卒業まで交際した末に捨てられた女やその家族がいる。学校の訓練はペナルティを含め全て厳しく、精神も肉体もギリギリまで絞込まれる。友人のシドも卒業したらペンサコラの航空基地行きの人を狙う現地女性と交際し、妊娠したと聞かされたり、卒業出来ないと言われたりで、青春にはめごとが絶えない。

ザックはポーラの誘いで彼女の家を訪問する。母親はかつて学生と結婚したが破れ、二度目の男と住み、娘も士官になる前だけ遊ぶ男に惚れたものと思い、皆白い目で見



写真3 ポーラの家で出てくるマッシュポテト

ている。しかしここで、テーブルでは大皿に白いマッシュポテトが載り、回ってくるシーンがある（写真3）。マッシュポテトは余るほどあるが、カップルは席を外しオートバイで出かける。その後卒業直前のサバイバルなどで、疎音となり、友人シドも女性の妊娠騒ぎに遭遇し、騒ぎが尽きない。シドとの友情は一貫して固く、フォーリー軍曹と格闘することもあり、青春ドラマは続く。

連絡疎遠で揉めたポーラとは彼女の働く現場に乗り込み、恋は成就する。晴れて少尉となって卒業し、士官（Officer）となる。紳士としての自覚もついたようである。オートバイで学校に行ってみると、かつての風景通り、軍曹が新人をしごいており、また新たな恋と友情の物語が始まろうとしている。